

生きづらさを 皆で支える

障がいのある皆さんには、それぞれさまざまな団体や支援をする人たちがいます。それぞれの想いを聞きました。

地域の相談員

地域で障がい者を支え、相談に乗る相談員。5人の身体障害者相談員と1人の知的障害者相談員がいます。身近な困りごとなどを相談してみませんか。

☎ 社会福祉課 (32) 13387

interview

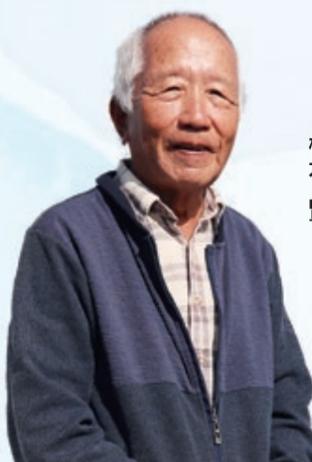
**悩んだときは
ぜひ声を掛けてください**

相談員になって約4年。年に1、2回の県が主催する研修を受講し日々勉強しています。相談員は専門家ではないので、当事者の話を聞いて、県の専門家や各機関につないでいきます。

最近のケースは、市役所小川支所の駐車場。市民の皆さんの意見も聞いて、身障者駐車場を市役所にお願ひし、設置してもらいました。他の自治体では、飲食店の利用を断られた事例もあつたそうです。

相談員はあまり知られておらず、相談に来られることも少ないのですが、誰にも言えず悩んでいる人は多いと思います。抱え込まず、ぜひ気軽に声を掛けてほしいですね。

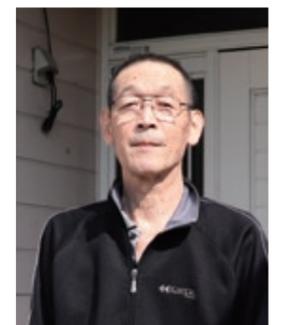
身体障害者相談員
橋本 賢さん



身体障がい

見た目だけでは
分からない症状も

市身体障害者福祉協議会
会長 野口 守さん



会員相互の親睦と融和が目的の市身体障害者福祉協議会。4月の総会をはじめ、県や市のグランドゴルフ大会、10月に社会福祉協議会と共催でスポーツ大会を開催。11月には市身体障がい者歌謡祭があつて、優勝者は県大会に出場します。症状は個人によってさまざまです。見た目で分からない機能障害がある人もいて、少しの温度差でも体に変調を来したり、痛みを伴う症状があることを理解してほしいですね。



知的障がい

接するときは、
笑顔で声掛けを

市手をつなぐ育成会
会長 北島 和子さん



昭和63年に十数人の親と教師で知的障がい者の親の会を立ち上げ、心の友鉛筆運動や障がい児学級の設立などを行いました。平成22年に「市手をつなぐ育成会」を設立。市内外で「地域と共に」をテーマに地域で知的障がい者の理解と啓発を行っています。さくらフェスティバルの開催や広報「希望」の発行はその一環。本人と接するときは、強い口調や大声ではなく、笑顔で声掛けをしてほしいです。



視覚障がい

「手伝うことは
ありませんか」その一言を

市視覚障害者福祉協会
会長 新野 征さん



当協会が設立して約35年。4、5月には、手引きボランティアを募って戸馳島を回る「歩こう会」を開催し、中学生がボランティアとして参加してくれます。11月には県や国への要望を話し合う福祉大会に参加。ニュース番組などの字幕スーパーの音声化や、歩道の点字ブロックの設置などの意見を出していますね。私たちが歩いているときには、手伝うことがあるか気軽に声を掛けていただけるとうれしいです。



精神障がい

特別視しないで
当たり前前に接してほしい

宇城地域保健福祉家族会
会長 山本 芽さん



身近な人に相談できないと苦しむ親御さんの悩みを話し合う会「症例検討会」を実施。独りで考え込まないで、何でも話せて、気が休まるサロンの雰囲気、情報源の基地となる当会(☎32-5948)に参加してほしいです。話すことで気が楽になり、将来への希望が見えるようになります。当事者一人一人が地域で生活できるよう、差別をしない、偏見を持たない、特別視しないで当たり前前に接してほしいと思います。

